

平成30年度第1回半田市障がい者自立支援協議会議事録

開催日時	平成30年5月28日(火)	14時00分～16時00分
開催場所	半田市役所 会議室301・302	
会議次第	<p>1. 会長あいさつ</p> <p>2. 協議事項</p> <p>(1) 平成30年度年間計画及び内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門部会（就労部会、こども部会、地域連携・ひとり暮らし部会、権利擁護部会、地域生活支援部会） ・強度行動障がいに係る支援体制検討会 ・医療的ケア児支援に係る検討会 ・相談支援連絡会 ・運営会議 ・各種研修 <p>(2) 障害者差別解消法における地域協議会について</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1) 平成30年度事務局について</p> <p>(2) 平成29年度基幹相談支援、委託相談支援の実績について</p> <p>4. グループワーク</p> <p>(1) 地域課題の共有について</p> <p>(2) 意見交換</p>	
出席委員 ()は欠席委員	加戸和徳、大田優子、藤田理格、立石佳輝、金森大席、井上将志、満留禎依子、岩橋康悟、神谷日出明、竹内稔晴、杉江徳長、山本加代子、石川茂子、岡崎将司、(前田博)、石川幸彦、小林智子、古田安徳、小田京子、(北村遼) ※敬称略	
事務局	福祉部長：新村 健康子ども部長：笠井 高齢介護課長：倉本、幼児保育課長：高浪 保健センター事務長：山口	

	<p>学校教育課：百武、地域福祉課長：榊原 地域福祉課 副主幹：杉浦、主事：村瀬、事務員：片山 子育て支援課長：伊藤、主査：内藤、主事：田中 半田市障がい者相談支援センター長：加藤 副センター長：小島</p>
次 第	議事概要
1. 会長あいさつ	<p>(加戸会長)</p> <p>平成30年度最初の協議会本会である。毎年気候の変化に異常をきたしている状況である。この気候の変化によって、障がいをもった方々の健康面においても、かなり起伏があるように思う。我々もそういったところに着目しつつ、各々の健康面にも気を付けていただきたい。</p> <p>今までは報告だけの自立支援協議会であったが、前年度の最後から、自立支援協議会の在り方を考え、グループワークを取り入れた。今回も前回同様にグループワークを取り入れており、地域の課題について皆で共有していきたいと思う。</p>
2. 協議事項 (1) 平成30年度年間計画及び内容について	<p>(加戸会長)</p> <p>次第2の協議事項(1)平成30年度年間計画及び内容について、各専門部会及び検討会から説明願う。なお質疑等については、すべての説明終了後とする。</p> <p>●就労部会(立石)資料：P6 例年と同じ活動を継続していく。年3回の部会本会としての活動を始め、雇用フォーラム、ハローワーク主催のマッチングサポートフェアを開催する予定である。また、今年度は新たに、子ども部会と連携し、11月に特別支援学級の保護者向けのガイダンスを開催する予定である。2月にはジョブサポーター養成講座を行い、企業同士のつながりや、企業の中の困りごとの共有を図っていこうと考えている。</p> <p>●子ども部会(藤田)資料：P7 障がい児支援に関わる支援者のスキルアップを図るため、</p>

4・8月に児童発達支援管理責任者向けの研修、12月に現場職員向けの研修を計画している。また、障がい児やその家族が将来のイメージや選択肢をもって子育てできる仕組みづくりをしていくというところで、10月に年長児の保護者を対象とした放課後支援ガイダンスと、11月に就労部会と連携し、就労ガイダンスを行っていく予定です。その他としては、6月に幼稚園・保育園の先生向けバスツアーを、8月に学校の先生向けバスツアーを行っていく予定である。

●地域連携・ひとり暮らし部会（井上）資料：P8

今年度開催する5回の部会の中で、平成29年度に半田市内で地域移行の対象者になる方の人数を集約したので、その具体的な数値に対し、どのような取り組みや、サービス内容が必要か等の検討を行っていこうと考えている。それに伴い、ピアサポーターの活用についても検討していきたい。また、住居の確保については、退院後にグループホーム以外を希望している方もいれば、実家に戻れずひとり暮らしをする方もいると想定する中で、なかなか物件探しから時間を要することもあるため、住宅セーフティネット制度を基に、不動産業者の方たちとも一緒に取り組めるものがないか考えていきたい。

●権利擁護部会（金森）資料：P9

虐待防止や障害者差別解消法の研修を市民向けや当事者向けにどのように行っていくかを検討していく。その中で、特別支援学校においても、障がい者差別について話ができないか検討中である。また、当事者の困りごとや、どういったところに差別があるのかを知るために、ピアの会や市のイベント等への参加も検討していく。具体的な内容はこれから部会で話し合っ

●地域生活支援部会（満留）資料：P10

地域生活支援拠点を事業所関係者に知っていただき、相談員とも協力しながら、深みのある地域生活の拠点を作っていく取

り組みをしていきたいと思っている。宿泊体験の実施及び検証については、引き受けていただける事業所がまだはっきり決まっていないので、大人と児童に分けて考えていこうと思っている。今年度は、他の部会とも連携しながら、ひとり暮らしを支援するプログラムについても考えていきたい。

●強度行動障がい支援プロジェクト（大田）資料：P 1 1

半田市では過去に3回強度行動障がい支援者養成研修(基礎)を行ってきたが、地域全体で強度行動障がいをはじめ特別な支援が必要な方を支えていくという点で、今年度は2市3町合同の圏域研修という形で実施する。昨年度、厚生労働省より、重度の知的障がいの方や強度行動障がいの方の虐待件数が若干ではあるが減少しているという結果がでている。

●医療連携検討会（内藤）資料：P 1 2

今年度は年4回検討会の実施を予定している。昨年度の反省点は、医療的ケアを必要とする児童の現状を情報共有ができなかったところである。今年度は各専門機関を含め、検討会の中で情報共有を図っていく。また、医療的ケアを必要とする児童を地域で支えていくにはどういった支援が必要なのかという内容についても検討していきたい。

●相談支援連絡会（片山）資料：P 1 3

基本的には2か月に1回という形で連絡会を行っていく。報酬改定についてすでに第1回を実施したが、次回以降は、介護保険の仕組みや意思決定支援等、各内容に沿って講師を招き、相談員に対し講義をしていただく形をとっていく予定である。また、事務局会議の実施についても2か月に1回を予定しており、そこでは地域生活支援部会でも取り上げられていた、地域生活支援拠点について検討していく場にしたいと考えている。

●障がい者自立支援協議会運営会議（村瀬）資料：1 4～2 2

今年度も予定通り、偶数月の第3木曜日に開催する。各部会の部会長から、各部会の課題や、部会では検討できない課題を運営会議に持ち上げて精査し、内容によって本会に議題として挙げていくという形で行っていく。基本的にこの運営会議が課題を具現化するための第一歩になってくる。このあと、各委員にグループワークを通じて半田市の地域課題を挙げていただくが、その内容についても各部会や運営会議で精査し、具現化していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

●各種研修（加藤）資料：25～28

現場職員向け研修については、今年度も昨年度同様に、年7回を予定して行っていく。介護職員等に対する喀痰吸引講座については7月に二週に分けて研修を行っていく。この講座については、実際に喀痰吸引を行っている事業所だけでなく、これから行う予定のある事業所も含めて参加の協力を得ていきたいと思っている。

（加戸会長）

以上ですべての説明が終了したが、何か意見や質問はないか。

（全員）

なし。

（加戸会長）

今報告いただいた内容は方向性である。まだまだ各部会で行いたい内容等もあると思うが、一つ一つ取り組んでいかなければ事が進まないということが障がい福祉の問題である。各部会で内容についてはしっかりと取り組んでいってもらいたい。

子どもから高齢者まで障がいを持っている方をいかに制度上で支えていくかを考えていくことが重要である。福祉サービスの問題だけでなく、地域で支える仕組みを作っていけるかがこの自立支援協議会に与えられた使命であると考えているので、各委員にも協力をよろしくお願ひしたい。

(2) 障害者差別解消法における地域協議会について

資料：別途用意

(事務局：小島)

平成28年度より障害者差別解消法が施行され、地域ごとの普及啓発や相談支援体制の構築、課題抽出を担う場として、各地域に支援地域協議会を設置することが謳われている。

半田市では設置まで至っていないのが現状であるので、今年度以降設置を検討していきたい。

設置にあたってはさまざまな機関の方をメンバーに入れることが予想されるので、他の市町村では、半田市でいう自立支援協議会本会や虐待防止連絡協議会等の既存の協議会に併設している地域が多い。半田市においても現在、既存の協議会と併設できないかと意見が挙がっている。

昨年度は権利擁護部会において、内閣の地域アドバイザーの方にお越しいただき、支援地域協議会設置についてのレクチャーをいただいているので、それに沿って今年度議論していきたいと思っている。

【質疑応答】

(加戸会長)

支援地域協議会の設置は義務化されているのか。

(事務局：小島)

市町村においては努力義務とされている。ただ、設置の検討は前向きにしている。

(加戸会長)

各委員からも意見や質問等あれば、この後のグループワーク内でも出してもらう形でよいか。

(事務局：小島)

よろしく願いしたい。

(加戸会長)

支援協議会設置について、運営会議等でも各委員から意見をだしていただくようによろしく願いしたい。

<p>3. 報告事項 (1) 平成30年度事務局について</p>	<p>資料：P 2 9 (加戸会長) 資料の配布により説明と替えさせていただく。 意見等ある場合は事務局の担当へ連絡するようにお願いしたい。</p>
<p>(2) 平成29年度基幹相談支援、委託相談支援の実績について</p>	<p>資料：P 3 0～4 1 (加戸会長) 資料の配布により説明と替えさせていただく。 相談件数も増えてきており、まだまだ相談を必要とする方がたくさんいる。相談支援体制をしっかりと構築し、障がいのある方の窓口として受け止めていっていただきたい。</p>
<p>4. グループワーク (1) 地域課題の共有について</p>	<p>資料：P 4 2～4 3 (事務局：村瀬) まず、事前に半田市障がい者相談支援センターと子育て支援課より挙げていただいた地域課題について共有を図りたいと思う。 その後、グループワークにより各委員から地域課題を挙げていただきたい。挙げた課題は今後、運営会議や各部会において精査していく予定である。 それでは半田市障がい者相談支援センター、子育て支援課から事前に挙げていただいた地域課題の説明をお願いしたい。</p> <p>(事務局：加藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重度訪問介護が足りていない 半田市で実施している事業所がない。研修を受けても実際に支援ができていないのが現状。 ● 医療的ケアを必要とする児童の通学について 現在の医療的ケアを必要とする児童に対する支援体制では、特別支援学校ではなく、通常の学校に通いたいと本人や家族が望んでも通うことができないのが現状。 ● 単身の身体障がいのある方が亡くなってしまった際の支払い

	<p>関係や財産の処分について誰がどのように行っていくのか。 この問題は年々増えているのが現状。成年後見制度や権利擁護の面でも課題になっていると思うので、グループワークの中でも話していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外国籍の方への相談支援が困難 外国籍の方への制度説明が難しく、十分な説明と本人の聞き取りができないままサービスの提供に至ってしまう。 <p>(事務局：田中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい児のきょうだい児への支援について ケースごとに求められるきょうだい児への対応に困っている親御さんが多い。後回しになりがちなきょうだい児に対しどのような支援ができるのか。 ●家族の孤立化を防ぐ取り組みについて 障がい児の家族同士がつながり、不安や悩みを共有できる場所が足りていないと声をいただく。孤立した子育てを防ぐために半田市としてどういった支援ができるか。
(2) 意見交換	<p>Aグループ (加戸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●福祉避難所について 10年ほど前に協定を締結した福祉避難所の状況で有事の際に機能できるのか。 以前は、福祉避難所連絡協議会が年に数回あり、連携を図っていた。 今後どのようにしていくのか→平成30年度中に見直しを行う (高齢介護課) <p>(金森委員、岩橋委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●居住にかかる保証人について 親亡き後に、ひとり暮らしをする際に親族がいないため、保証人が立てられず入居できない課題がある。保証人が必要ないアパートもあるが、障がいを理由に断られるケースもあるとのこと。

入居の最終判断は大家さんの判断に委ねられるため、たとえばヘルパーがどれくらい入るのかなど問われることがある。

県営住宅、市営住宅の要件を緩和して、障がいをもっている方の入居の促進ができないか。

県営住宅、市営住宅の退去費用についても課題がある。退去時に風呂釜の撤去などにより 50 万円近くになるケースもあり、退去に伴い借金を背負うことがある。

(金森委員)

●児童相談ケースの判断について

児童保護の決定の判断基準がわかりにくいため、一定の基準があるとよい。

(満留委員)

●重度支援の在り方について

重度の障がいをもっている方を支援する専門的な施設が必要ではないか。小さな事業所でも、どう対応していくか考えていく必要がある。

また、親が倒れた際に、急な手術が必要となったとき、障がいのある子では手術の同意が確認できず、手術ができないことがあった。意思決定の部分においても課題がある。

(岩橋委員)

●本人の情報について

障がいをもっている方は、有事の際などに名前、住所、どんな障がいを持っているかなど、情報が分からず対応に困ることが想定される。情報の保管場所など、統一の見解が必要ではないか。

(石川委員)

●外国籍の方への対応について

外国籍の方が増え、面談や懇談会などの際に、通訳が必要となるケースが増えている。

Bグループ

(岡崎委員)

●緊急ショートの受け入れ施設について

緊急ショートを受け入れる宿泊施設が少なく、足りていないと感じる。

特別養護老人ホームで緊急ショートを受け入れているが、対象者の普段の様子を知らないことも支援の難しさの一因である。

(子育て支援課 伊藤課長)

●医療的ケアを必要とする児童に対する医師の確保について

医療的ケアを必要とする児童について、往診医師が不足している状況。医師の確保が課題である。

(子育て支援課 内藤主査)

●虐待防止について

児童虐待を対応していると、子ども、両親ともに障がいがある場合がある。このような世帯の虐待防止や支援を地域でどう支えていけるか課題。

(杉江委員)

●介護が必要な世帯の支援について

母が介護保険利用者で本人も障がいがある。どちらも介護が必要な状態であるが、地域で生活していきたい。

(石川委員)

●精神障がいの方の支援について

精神障がいの方は波があり、調子の悪い時が予期できない。身体や知的に障がいのある方との違いである。緊急時に一時的に預かってくれる場所がほしい。

障がいを持つ子の親亡き後の生活が不安である。

(井上委員)

●精神障がいの方の支援について

精神障がいの方で移動支援をさらに活用したいが、支給決定が8時間と足りないため支援につながらない。

家族全員が支援を必要とする人と思われるが、通常のサービスを受けられない家族であると、関わりが持てず、動くことができない。そういった家族を見守る体制が必要ではないか。

(大田委員)

●インクルーシブが教育できる人材の育成について

差別解消法やインクルーシブについて、読み違えていると思う。正しいインクルーシブが教育できる人材を育成する必要がある。

(岡崎委員)

●障がいをもっている方に対する介護職員の支援が難しい

特別養護老人ホームは、本来、高齢者を対象とする施設であるが、緊急ショートステイでは知的や精神の方などを受け入れている。日に1～2名の障がいをもっている方の利用がある。職員はその方への支援のノウハウがないため、支援が難しい。また、支援が可能となるよう人材を確保しようにも、人材不足である。

(古田委員)

●障がいを隠す方が多い

ハローワークで求職活動している方で自分の障がいの情報をクローズする方が多い。障がいの情報をオープンにしてくれたら、医師と連携できると就労支援につながると思う。

(大田委員)

●市内事業所の人材確保について

障がい者の多様な要望に応えられる事業所の人材が不足している。市内事業所は人材を求めている。

→ハローワークでは合同面接会を実施しており、半田バージョンとして事業所や求職者や学生など集めてハローワークと共同で合同面接会が実施できないか。事業所連絡会で検討してほしい。

Cグループ

(竹内委員)

●外国籍の方への対応について

障がいの有無に限らず、半田市として外国人への施策が整備されていない。

言語が壁となって会社の創業をしたくてもできないという話を聞いた。また、病院の受診など日常的な面でも困っておられる方も多い。

(立石委員)

三重県の先進的な福祉事業所では、ポルトガル語を話せる障がいの専門的知識を持ったスタッフが配置されていると聞いた。

(立石委員)

●障がいをもっている方の就労について

特に重心障がいをもっている方の就業場所が少ない。「働き方」を考えていく必要がある。

(小林委員)

●知的障がいはないが身体障がいかつ医療的ケアを必要とする児童について

後天的に重度の障がいを持つに至った児童が、特別支援学校に転校せずとも継続して地域の小中学校に通学できるようにするなど、本人が望む教育を受けられるよう整備が必要である。そのためには看護師が同行できると、学校選択の幅が広がる。また、学校ごとに「特別支援学級」への考え方が異なるように感じる。校長先生の考え方に、大きく左右されている印象もある。

(神谷委員)

医療的ケア児を含め、単体ではマイノリティだが、「様々な障がいや家族背景を有するため、個別に丁寧に支援を考えていく必要がある」という意味での子どもはかなり多い。他市町での先進的な施策を吸収しつつ、半田市としてどれだけ本気になれるかが問われている。

	<p>(神谷委員)</p> <p>●障がい児のきょうだい児への支援の在り方について</p> <p>保護者が障がい児にかかりきりになってしまう結果、きょうだい児が障がい児に手を出してしまうという、悲しい事例があった。障がい児を支援に繋ぐことで、保護者がきょうだい児とふれあう時間を創出し、結果手が出ることはなくなった。きょうだい児が子どもに戻れる時間が必要である。</p>
	<p>(加戸会長)</p> <p>このような形で次回の半田市障がい者自立支援協議会も進めていきたいと考えている。課題の報告を受けるではなく、課題を発信していき、取り組んでいくという場にしていきたいと思っているので、各委員、各部会のメンバーの協力をよろしくお願いしたい。そして、当事者の方に半田市で暮らせてよかったと言っただけの地域にしていきたいと思う。検討課題は多いが、協議会の使命と考えているので、今後ともよろしくお願いしたい。</p> <p>それでは、これで会議を終了とする。</p>